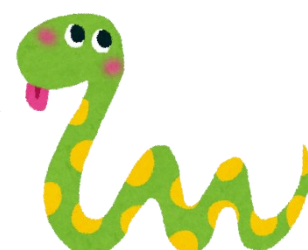




たらちね通信

Mothers' Radiation Lab & Clinic Fukushima

vol.24



2025.7

たらちね通信

応援してくださる皆様へ

いつもたらちねの活動を温かく支えていただき、心から感謝申し上げます。
私たちの活動についてご報告申し上げるために、たらちね通信をお送りいたしました。
2024年度の事業報告と2025年度上期の活動内容を掲載しております。
お忙しい中恐縮ですが、ぜひご一読いただければ幸いです。

暑さがますます厳しくなっています。
皆様、どうぞご自愛くださいませ。

目次

- ✿ たらちね 設立の趣意
- ✿ 各事業の報告（2024年度事業報告と2025年度上期活動について）
- ✿ 2024年度会計の報告
- ✿ ご寄付のお願い
- ✿ 野の道



設立の趣意

わたしたちは、「いわき放射能市民測定室」を設立します。原子力発電所の事故による広範な放射能被害の下で、不安な生活を強いられているわたしたち自身が、よりよく、より強く、生きていくために、それを設立するのです。

不安の払拭はその正体を追い詰め正しく識知することから始まります。事実を見つめることなく曖昧で不信実なことばで取り繕うことは、目には見えないが確かな焼け野原に立っているわたしたちには、もはや前時代のものでしかありません。わたしたちは地域住民とともに被曝の事実をひとつひとつ確かめていくということから始めます。かつてわたしたちがこの地で経験したことのない、もたらされた自然の病態と治癒とを手探りでたどり確かめていくことは、野の人の手作業のように、間違ったらまた戻り、やり直し、積み重ねていくということです。どうかそこにひとつの良心が立ち上がりますように。

わたしたちは永続する課題である内部被曝の防止・軽減のために次のことを実行します。

1. 食材に内在する放射能を地域住民の求めに応じて測定し、地域住民が食材放射能の実態を知り、危険をつきとめ、より安全な食生活を送るための材料として、測定データを提供します。
2. 食生活や労働およびその他の生活活動にともなう人体への内部被曝を、地域住民の求めに応じて、人体の全身放射能測定により検査し、安全でのびやかな生活活動を送るための目安として、測定データを提供します。
3. 一連の測定データが地域住民の安全にとって重大な意味を持つ場合は、必要な見解を公表し、社会的行政的な措置を求めます。
4. 地域住民がもっともたやすく被曝の状況を知りうるものとして、当測定室の測定データを公表します。
5. 計測器の適切な管理のもとで諸個人が容易に測定できるように、計測技術の普及に努めトレーニングを実施します。
6. 理科学・医学等の専門家と連携して事実の究明、測定技術の研究練磨、医学的知見の集積に努めます。
7. 地域住民の手になる民間の測定機関と連携して、広範囲の被曝状況の情報化に寄与します。

わたしたち、いわき放射能市民測定室は、数年後、数十年後に、この事故による心と身体健康被害者が少しでも少なくなるように、今やるべきこと、今できることを実行する測定機関をめざします。

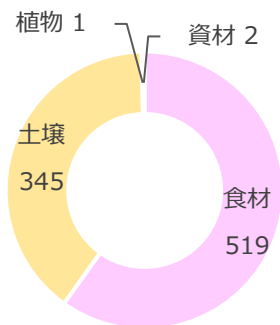
2011（平成23）年 10月 9日
いわき放射能市民測定室
Iwaki Radio-Proof Centre, Tarachine



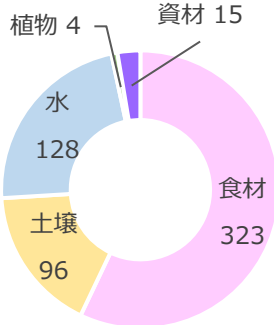
2024年度の放射能測定件数

合計1680件(セシウム137、セシウム134、ストロンチウム90、トリチウム)

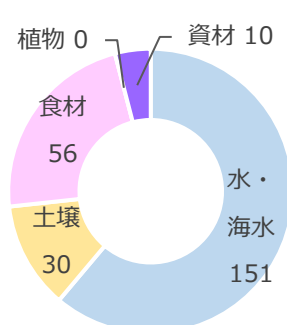
NaIシンチレーション測定器による測定
(セシウム137、セシウム134)
総測定件数：867件



ゲルマニウム半導体測定器による測定
(セシウム137、セシウム134)
総測定件数：566件



液体シンチレーションカウンターによる測定
(ストロンチウム90、トリチウム)
総測定件数：247件



PDF測定データ

測定データベース

詳細な測定結果はこちらの
QRコードからご覧ください。



放射能測定の概要

食品と水

依頼検体の他に、セシウム値が比較的高めである山菜類・きのこ類など、採取から食卓に上がるまでの時間が短く、迅速に情報提供しなければならないものの測定を実施しました。



子どもの遊び場

海水浴場の海砂や公園などの空間と土壌の環境測定を実施。地元のお母さんからは、「子どもたちが遊ぶ公園は、たらちねの公園測定結果を見て判断しています」などの連絡もありました。



海洋調査

2024年7月(海洋放出中)、11月、2025年3月に実施。

11月の調査は、悪天候が重なり、2回延期となりましたが、何とか実施することができました。

クロスチェックの実施

クロスチェックとは、たらちねの測定が信頼できるものであると証明するためのテスト測定のことです。確認や検証の精度や信頼性を高める手法の一つで、値のズレや誤検出がない事を確認するために行い、その結果から、たらちねの測定が正確であることを科学的にも社会的にも示すことができます。

2024年度は、公益財団法人日本分析センターとのクロスチェックを行い、どの結果も、誤差の範囲内で一致していることを確認できました。



クロスチェックの結果

試料名	採取日	採取場所	測定機関	セシウム137放射能濃度 (Bq/L)
セシウム 海水	2024年10月2日	いわき市/小名浜港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.005 ± 0.0005
			公益財団法人 日本分析センター	0.0035 ± 0.00086
	2024年10月2日	双葉郡/富岡港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.017 ± 0.0007
			公益財団法人 日本分析センター	0.019 ± 0.0011
トリチウム 海水	2024年10月2日	いわき市/小名浜港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.16 ± 0.05
			公益財団法人 日本分析センター	0.15 ± 0.018
	2024年10月2日	双葉郡/富岡港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.32 ± 0.05
			公益財団法人 日本分析センター	0.29 ± 0.019
ストロンチウム90 海水	2024年10月2日	いわき市/小名浜港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.0008 ± 0.0003
			公益財団法人 日本分析センター	0.00075 ± 0.000086
	2024年10月2日	双葉郡/富岡港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.0008 ± 0.0003
			公益財団法人 日本分析センター	0.00087 ± 0.000093



2025年度事業計画について

福島第一原発からの処理汚染水による海洋汚染が大気にも影響を及ぼす可能性に注目し、大気中のトリチウム濃度を測定します。トリチウムは水素の一種で気体にもなりうるため、海と大気の相互関係を踏まえ、生命に不可欠な空気の安全性を確認するための調査を実施します。



4月～7月の活動内容

4月 宮城県/仙台湾 3地点 海洋調査

5月 福島県内 4地点 海砂調査
いわき市/四倉海岸, 薄磯海岸, 勿来海岸
双葉郡/岩沢海水浴場

6月 福島県沿岸 9地点 海水調査



7月 福島第一原発沖 4地点 海洋調査

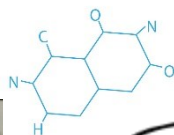
※これらの結果は、測定が終了次第HP等に掲載しています。是非、ご覧ください！

測定結果は、こちらから <https://tarachineiwaki.org/radiation/result>

測定室の様子



測定ラボスタッフの声



草野…トリチウム測定担当



小林…ガンマ線測定担当

私は、「水」の測定をしています。海水は、船で沖へ出て採取したり、港や砂浜から採取したりと様々な方法がありますが、どれも地域の皆さんの協力があってこそ成り立っています。また、報告会では測定結果を待ち望んでいる方々がいることを実感しました。そうした方々の想いを胸に、これからも一つひとつの作業を丁寧に取り組み、正確なデータをお届けしていきます。

私は、たらちねで働くようになり原発事故の影響が14年経つ今でも、まだまだ残っているのだと知りました。今後も、みなさんの安心につながるよう、測定を通して貢献できるよう、一つひとつ取り組んでいきたいと思っています。





たらちね こどもドック手帳の配布

2024年度配布数：95冊 2冊目、3冊目になる方もおり、2021年4月配布開始以降、計305冊配布しました。

たらちねこどもドック手帳は、原発事故で被災した子どもたちが、被災を受けていない地域の子どものたちと同じように健康に成長することを願い配布しています。こどもドックの血液検査や内部被ばくの検査結果を記録することによって、子どもが健康であることを科学的に示すことができます。



こどもドック・おとなドック利用者数

子どもドック利用者数：190名

大人ドック利用者数：172名

感染症の流行が落ち着きを見せ、たらちねこどもドックの受検者がクリニックに戻ってきました。県外へ就職・進学したお子さんが、いわき市へ帰省するタイミングでたらちねクリニックへ顔を出してくれるのが何より嬉しいです。また、年間被ばく線量20ミリシーベルト未満と高線量で管理されている双葉郡への帰還が促進される中、事故当時、未成年だった青年たちもさまざまな形で、その地域の作業に従事しています。おとなドックは、それらの人々の健康を守る検診事業で、受検者は測量や建設業の方が多い傾向です。双葉郡の経済活動が活発になるのと比例するように受検人数も増えています。こころの復興が置き去りにされないよう患者さんに寄り添っていきたいと思います。

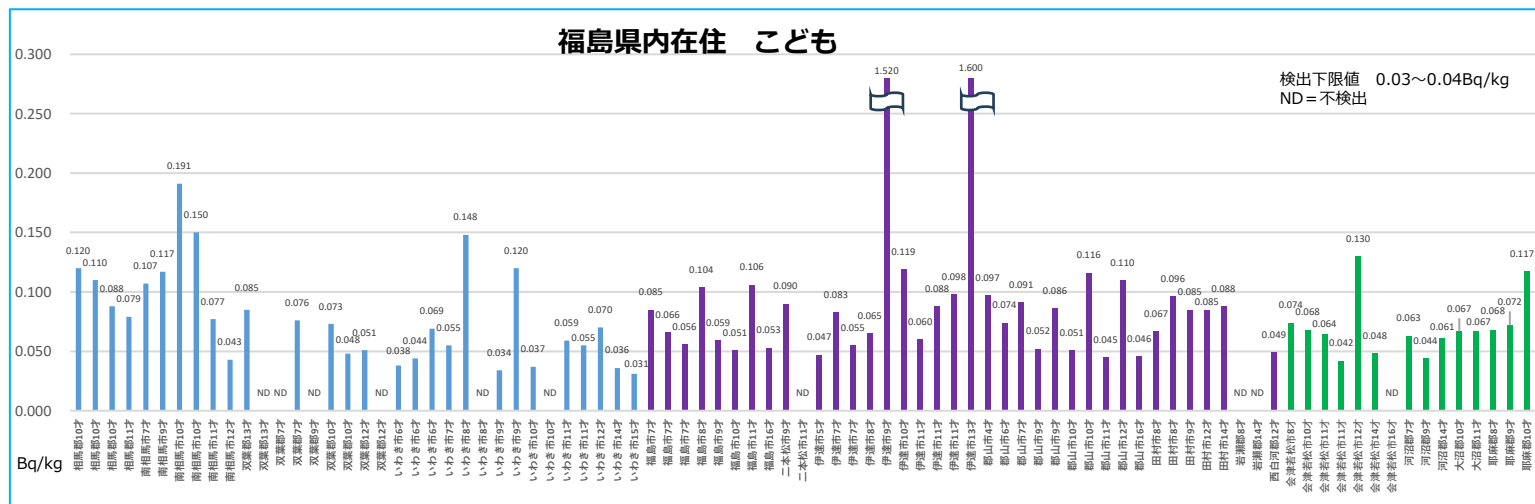
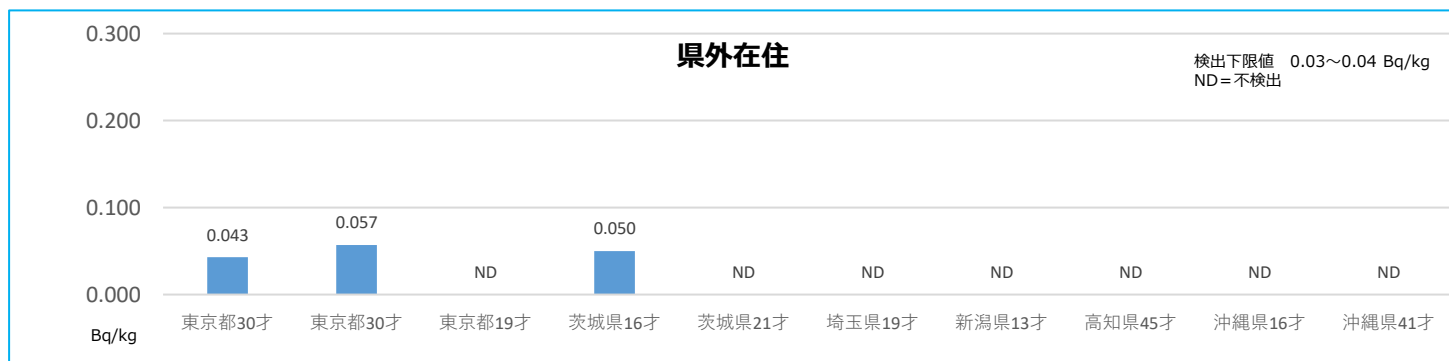


尿中セシウムの測定と被ばく防護

尿中セシウムの測定は、ホールボディカウンターの測定と比べて検出限界値が低く、内部被ばくの推移が分かりやすいのが特徴です。たらちねでは、2015年からNPO法人新宿代々木市民測定所と連携し、測定を実施しています。年間200人前後の受検者があり、これまで1000人以上の尿中セシウム測定を行ってきました。受検者は、測定結果を知ることにより、日常の食べ物や生活環境を見直して、被ばく防護に役立っています。



2024年度 尿中セシウムの測定結果 県外在住者と県内子ども



たらしねクリニック 院長挨拶

子どもたちには、なんでも挑戦して、嬉しいこと悔しいこと、様々な経験を積んでほしい。そんな願いはみなさん持っていることでしょう。しかし時には、子どもたちにとっての大事な局面で、ストップをかけられてしまうこともあります。それが大人の都合と理解不足で、そうさせられたこともありました。

過度の手洗いで荒れた手をさらに消毒させたり、楽しい給食の時間に友達と話をすることを禁じられたり、暑い外でもマスクを強制させられたりしたのはつい最近のことです。時として規則が優先され、子どもたちにとって理不尽とも思われることが、まかり通っていたこともありました。親が常にマスクをして乳幼児に接した場合、表情を読み取れない児の発達が約3カ月遅れるといった調査報告もありました。大人のルールは、時として子どもの発育を押さえつけてしまいます。

原発事故の時には「わたし、外遊びしていないからね」そう言って大人の顔色を見ていた子どもたちや、親の動揺した感情の前で、ひたすら「いい子」になっていた子、あるいは親の思う通り「健康状態が悪い子」を演じたりする子もいました。

子どもたちが自由に遊びまわり、いろいろな挑戦や体験をし、大きく成長していくためには、子どもたちにとっての安全基地が必要です。その安全基地は周りの大人が担っていくもので、特に6カ月から1歳半までの母親の役目が大切になります。そしてその母親を支えていく家族や社会があってこそ、子どもたちにとっての安全基地が機能していくといえます。子どもがのびのび育っていく環境をつくっていくのは、子を持つ親だけではなく、どんな形であっても子ども時代を過ごした全ての大人の役目ではないでしょうか。



藤田 操

2025年度事業計画について

福島第一原発事故から14年が経ちました。月日が流れるにつれて、被ばく防護への意識もだんだん薄れてきているのが現状です。しかし、セシウム137の半減期は30年と長く、汚染の状況も大きく変わっていません。クリニックでは開院当初より「こどもドック」を実施しております。2024年は191名の方がこどもドックを利用されました。原発事故以降、「子どもの体に何か影響があるのでは」と不安を抱えて過ごされている方が多くいらっしゃいます。「こどもドック」を受けて、“何もない”ことを確認するだけでも、大きな安心につながっています。これからも、被ばく防護に努め、お子さんの今と未来の健康を守るために、この取り組みを大切に続けてまいります。

こどもドック（尿中セシウム測定）利用者の声



尿中セシウム測定の目的は、内部被ばくを測定することです。その結果により、日常生活や食事改善などのアドバイスや検診につなげていきます。



『どこでもできる検査ではないので、親子で受けることができて良かった。これからは食事などに気をつけていきたいと思った。』



ー こどもドック ー

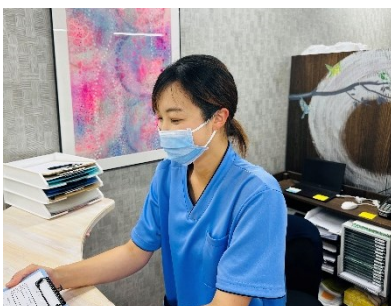


ー 尿中セシウム測定キット ー



『周囲の人たちは気にしていないし、自分も年々意識が薄れてきていたが、今回の結果を受けて、まだまだ山菜など気をつけなければいけないと思いました。』

クリニックスタッフの声



このたび、たらしねクリニックで医療事務として勤務することになりました。私自身も子育て中の母親ですので、小さなお子さん連れの方の気持ちに少しでも寄り添いながら、安心してご来院いただけるよう丁寧な対応を心がけてまいります。まだまだ、勉強中ですが笑顔忘れず頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。（根本）





たらちねの保養について

たらちねでは、2012年から沖縄・球美の里と連携し保養事業を開始しました。

福島第一原発事故が起きて、子どもたちは外遊びを制限されるようになり、自然と関わるができなくなってしまったり、環境が汚染された影響で、内部被ばくの心配もありました。心身の健康を維持するために、原発事故後の子どもたちにとって、保養は大切なプログラムとなりました。

○沖縄・球美の里

2024年度：実施回数17回、子ども83名、保護者55名、合計138名の参加

沖縄・球美の里の保養事業は、2023年度に認定NPO法人沖縄・球美の里からたらちねが事業を引き継ぎました。たらちねが保養の最初から最後までを担うのは今年で2年目です。コロナ禍以降、家族保養に形を変え実施してきましたが、球美の里で過ごす時間の中で、家族間で語りにくかった震災の話や、その後のわだかまりが溶けていく様子が顕著にみられました。その参加者の姿を見るにつけ、大人にとっても、このような場が必要であること、そして、それは子どもの心にもつながる大切なことだと感じます。

○他団体との連携保養事業

2024年度は、前年に引き続きオルトディソーニと、くまべこ・子どもを守るママの会の2つの団体とそれぞれに連携し、保養を実施しました。

●オルトディソーニの保養

夏休みに4名の子どもがイタリアで1ヵ月間を過ごしました。

双葉郡は、これまで帰還困難区域で立ち入りが制限されていましたが、大熊町、双葉町などの原発立地町も徐々に立ち入りが解除され、居住が促進されています。2024年度はそれらの地域の子どもたちが参加しました。イタリアの美しい自然と美味しい食べ物、楽しいプログラムの中で、子どもたちはのびのびと過ごすことができました。そんな中でも、保護者と一緒に高線量の地域に移住する子どもたちが、大人同様に様々な悩みを抱え格闘している姿もあることがうかがえました。

●くまべこの保養

夏の球美の里保養参加と、冬の森の分校ふざわお泊まり会の2回実施。

球美の里保養参加者は子ども3名大人2名の合計5名、冬の森の分校ふざわお泊まり会の参加者は子ども8名、大人4名の合計12名でした。

2011年の福島第一原発事故により強制的に避難を強いられた人々が、近年の帰還促進により「避難先に残る人、もとの居住地に帰還する人」との厳しい選択を迫られ、心の分断が再び起きています。その心を繋ぐ事業として、大熊町出身の母親たちが奮闘している事業です。

保養の様子は、こちらのQRコードからご覧ください。

沖縄・球美の里



オルト・デイ・ソーニ



くまべこ・子どもを守るママの会





2025年度事業計画について

今年度は「こころのケア事業」と連携しながら活動していきます。震災から14年が経ち、当時の乳幼児たちは思春期・青年期を迎えています。この大切な時期を震災というストレス下で過ごした影響から、子どもたちやその家族に、言葉にしづらいこころの疲れが見られることがあります。こうした精神的消耗は全国的にも見られますが、被災地では震災が背景にある可能性が高く、無視できません。誰にでも降りかかる災害だからこそ、時間をかけて向き合う必要があります。家族での保養の時間が、ほっとひと息つき、こころを元気にしていくきっかけになることを願って、大切に活動を進めていきます。



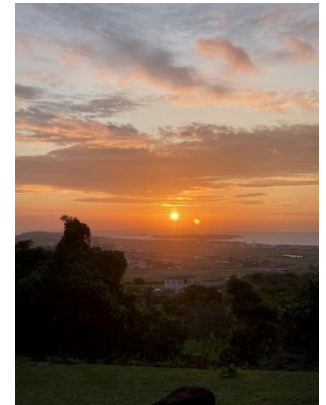
2025年度保養参加人数

保養期間	子ども	保護者	計
第58次ファミリー保養 2025年4月25日 - 4月29日	3	4	7
第59次ファミリー保養 2025年5月12日 - 5月16日	6	4	10
第60次ファミリー保養 2025年7月2日 - 7月6日	3	2	5
第61次ファミリー保養 2025年7月24日 - 7月28日	6	5	12※

※ 球美の里キッズ 保養ボランティア1名参加あり



沖縄・球美の里 保養の様子



沖縄・球美の里スタッフの声



球美の里の保養は、久米島の風を感じながら家族でゆったり過ごせるように、できるだけデジタルから離れ、朝日を見たり、深呼吸し、感謝して食卓を囲み、自然に触れて、笑い、遊んで眠りにつく…その様な暮らしを大切にしたいと考えています。是非お待ちしております。（影山）



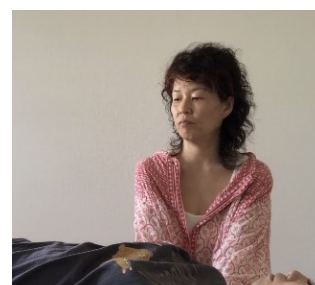
保養に来てくださる方々が「球美の里に来て良かった！」と感じてくれるようサポートしていきたいと思っています。（森）



－発酵食品を取り入れた健康的な食事－



球美の里の潮風や自然に包まれた中でのセラピーをぜひ体験して下さい。お待ちしております。（高田）

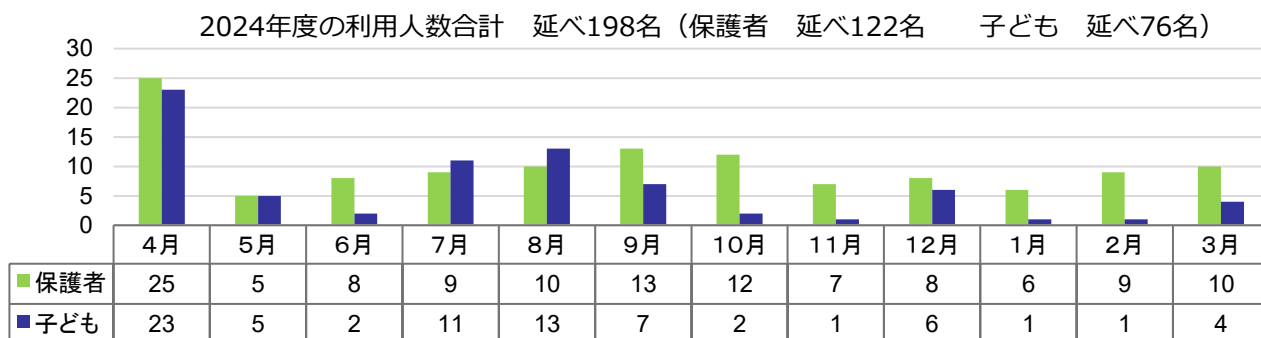


いつも貴重な美しい時間を共有させていただきありがとうございます。ありがとうございます。（小林）



あとリエ たらちねとは

たらちねでは、被災地のこころのケアを行うために、2018年にあとリエ・たらちねを開設しました。被災者による被災者へのケアのピアサポートは、今年で7年目となります。母子それぞれの語り（ナラティブ）が自由にできる、守られた空間と遊び、こころの疲れをほぐすボディワークなどを中心に様々なメニューを揃え、事業を展開しています。



被災と子ども

被災地で起きる心の問題は、表面的には、どこでも起きうるものと同じように見えますが、被災を経験した人の人数の多さから、問題の発生数も増え、被災と心の問題の関わりが深いことが見て取れます。特に、人の脳の発達に重要な3歳未満の時期に避難を繰り返す原発事故の被災に遭遇している子どもたちの精神疲労が心配される時期になっています。

・福島県の不登校について 2022年福島県による調査結果

小学校:不登校の児童数は815人で、前年度より487人増加

中学校:2,060人の不登校生徒がおり、前年度より352人増加

全体:小学校と中学校を合わせると、不登校の児童生徒数は2,875人で、前年度より839人増加

〇お母さん面談とナラティブ

初相談：7件

子どもの身体の不調や学校への行き渋りなど、目に見える問題に困るなどが来所のきっかけです。

体調不良で病院に行ったが、問題ないと言われ、もうどこにも相談できない…でも、子どもも自分も困っている、どうしたらいいのかわからない…主にそういった相談が多く寄せられます。

相談をきっかけに、子どもがあとリエの遊び場を利用し、遊びの力で回復していく姿を見て、涙されるお母さんもいました。このように、朝起きられない、不登校など、「目に見える問題だけを切り取って解決できたからよかった」というのではなく、お母さんと子どものこころを両面からサポートしていくことが大切だと思っています。

〇ママカフェ ～ 子育てとナラティブ ～ 計8回

月に1回のペースで開催。ワークショップでの作品作りや、勉強会、おしゃべりや、ピラティスなど、4名から5名を定員とした小さなカフェ。夏休み・冬休み期間は親子で楽しめるイベントを企画し、「自分一人じゃない」と思える空間作りを大切に、心身共にリフレッシュできる、楽しめる時間を設けています。

〇研修会

・6月 世界乳幼児精神保健学会 第19回 タンペレ大会 ポスター発表

・7月、10月 いわき乳幼児精神保健学研修会 講師 児童精神科医 渡邊 久子

乳幼児精神保健学は、精神学の芯となる学問であり、基礎と土台が大切で、あとリエの現場で重要な視点となってきます。スタッフのスキルアップのため専門家の協力を得て学びの時間を設けました。



2025年度事業計画について

あとリエ たらちねには、長年理由のわからない悩みを抱えた保護者が訪れます。子どもの状況が改善しても、保護者のこころの重さが影響を及ぼすこともあります。ナラティブ（語り）は、自分自身のこころの井戸の中にある悲しみやわだかまりを客観的に見つめることに繋がり、こころの癒しと活性化につながります。今年度も専門家の協力のもと、ナラティブに重きを置いた活動を行いたいと思います。



4月～7月の活動内容

○ママカフェ

4月10日 3.11に学ぶこころのケア
5月27日 レジンのアクセサリ教室
6月24日 ナラティブの時間

○夏休み特別企画

7月30日 親子工作教室

○勉強会

6月4日 第4回 いわき乳幼児精神保健学研修会
講師： 渡邊醫院 児童精神科医 渡邊 久子

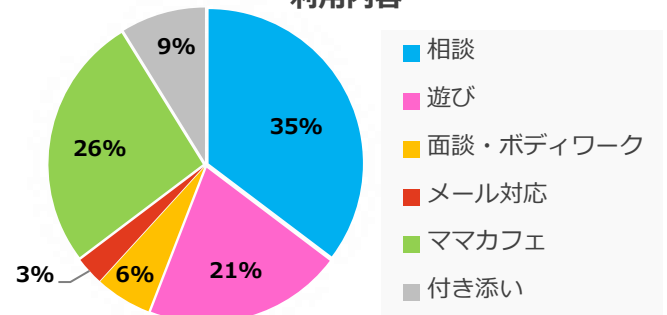
6月～ 全4回 トレヴァーゼン・シリーズ：映画を通して赤ちゃんを研究する



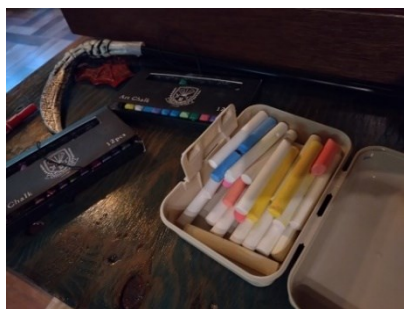
あとリエ たらちね利用者数・利用内容

2025年4月～6月利用者数	4月	5月	6月
保護者	10	6	11
子ども	2	2	3

利用内容



子どもたちの遊びの様子



あとリエ たらちね こころのケアスタッフの声



あとリエで子どもたちと一緒に過ごし、遊びがもたらす力を実感しています。思い切り遊びきること、遊びから得られる満足感を大切に、子どもたちと日々関わっています。
また、お母さんたちも、自分のことを語る中で気づきや整理が生まれ、悩みの糸口が見えてくることがあります。
これからも、ナラティブ（語り）を通して想いに寄り添い、お一人おひとりに向き合っていきたいと思っています。（矢吹）

小児甲状腺がんの状況について

国立がん研究センターの統計データによると 小児甲状腺がんの発症率は、がん全体と比較すると極めて低く、2000年～2007年の0～18歳の甲状腺がん罹患率は、100万人あたり1～2人とされています。

一方、2025年5月の福島県・県民健康調査の発表では、原発事故当時18歳以下で福島県内に居住していた未成年（当時）で甲状腺がんを発症した人は、2011年10月の調査開始から数えて353人（38万人対象）でした。

自覚症状があって診察を受ける場合と、無症状で検診のスクリーニングで発見される症状では、一概に比較はできませんが、福島第一原発事故後に、がんと診断されたお子さんの数が、これまで知られているデータよりも多く、被災した人々が不安を感じていることは確かです。

この中に、事故直後、県外避難した子どもや、何らかの理由で福島県の検査を受けていない子どもは入っていません。したがって、事故当時、福島県に居住していた未成年で、実際に罹患している人数は、もっと多いことが予想されます。

スクリーニングによる過剰診断の問題を指摘する報道もありますが、2024年の福島県立医科大学の報告によると、手術を受けた小児甲状腺がんの症例（98%がステージ1）のうち、約半数で甲状腺外への顕微鏡的な浸潤が確認されています。手術を受けた96例の症例では、軽度甲状腺外浸潤が38例（39%）、リンパ節転移が72例（74%）認められたとあります。これは、小児の甲状腺がんの治癒率が高いとされる一方で、周囲組織への浸潤や転移がみられる可能性があることを示しています。発見が遅れて、重篤な結果に至っている例もあるため、早期発見、適切治療という原則は、他の病気と同じであると思います。

たらちねの検診について

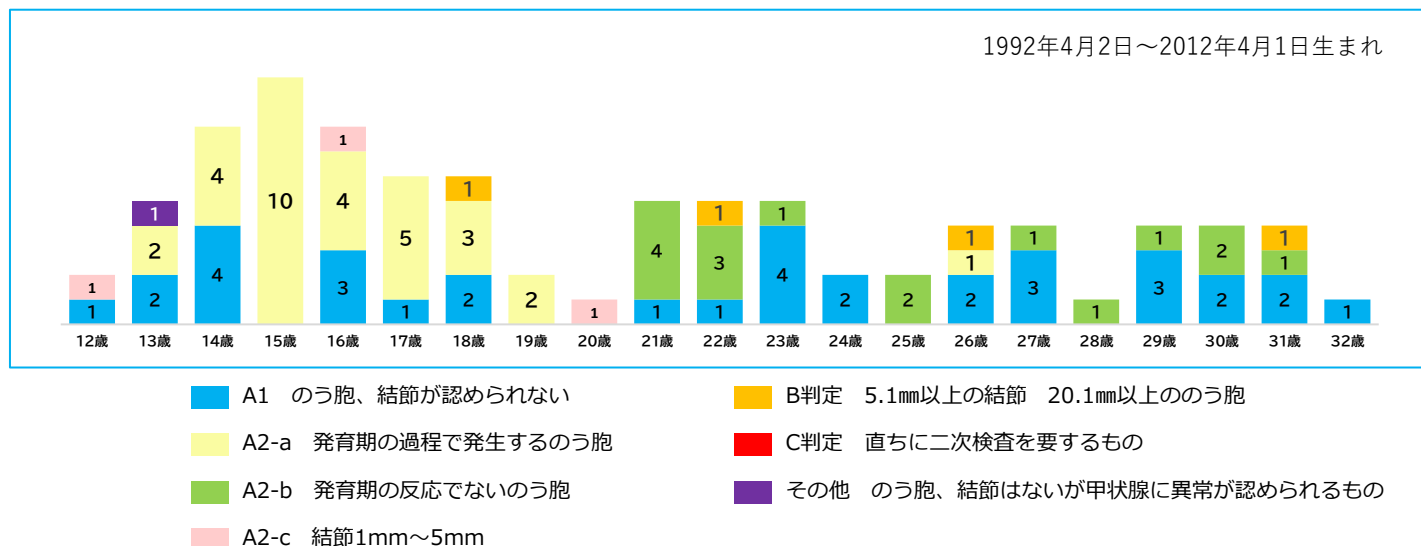
2024年4月～2025年3月の出張甲状腺検診 11か所で実施

いわき市44人、福島県中通り69人、会津若松市15人、双葉郡9人、宮城県41人、山形県26人、茨城県29人、東京都33人で合計266人 ※その中で事故当時18歳以下は89人

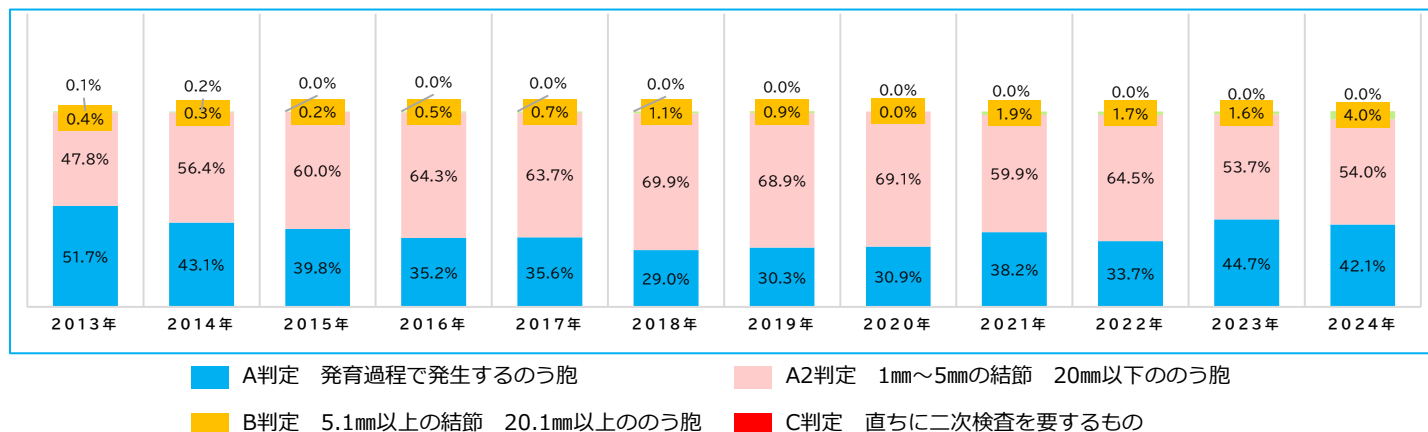
たらちねでは、2013年から甲状腺がんの検診事業を実施しています。未成年は、保護者同伴で検診を受け、心配なことがあれば保護者が直接、医師に質問し説明を受けるようになっていきます。「お子さんを怖がらせない」ためにお子さんの精神面への配慮も行なっています。検診を受けることにより安心を得られ、また、日常の被ばく防護の心がけにもつながっています。

たらちねでの検査結果ではB判定が増えています。福島県の甲状腺検診は25歳以上から5年ごとの検診になってしまっているので、いつでも受けられる、たらちねの出張甲状腺検診に是非、足を運んでいただきたいと思います。

2024年度たらちね検診結果



2013年～2024年たらちね検診の経年結果



前年度に引き続き、出張甲状腺検診に併せて、各部門の担当者が福島県内でたらちね大相談会を開催しました。ご家族でご来場いただき、ブースごとに足を止め、スタッフの声に耳を傾けてくださいました。いわき市までは中々足を運べない方にも、たらちねを知っていただく貴重な機会となりました。また、皆さまから優しいお言葉がけもいただき、スタッフ一同大いに励まされました。

こども保養相談会

自然体験を満喫できる転地保養の内容や申込方法など、詳細をご説明します！パンフレットなどもご用意しておりますので、お気軽にご相談ください。

沖縄 球美の里 離島保養
・募集日程のご案内
・施設や滞在スケジュールについてのご相談



こころのケア ワークショップ

子育てについて悩んでいませんか？誰にも相談できず、苦しい気持ちを抱えている方、ひとりで悩まず、ぜひご相談ください。

・子育て相談
・パステルアートワークショップ
・箱庭あそび体験



クリニック健康相談会

ここからだの不安や心配事はありませんか？おひとり抱えず、一緒に解決への糸口を見つけましょう。

・健康相談
・尿中セシウム測定のご案内



放射能測定相談会

いつも食べているお米や野菜に、どれくらい放射性物質が含まれているか、気になりますか？たらちねでは、放射性物質の測定・分析、子どもたちの生活環境の放射線測定を行っています。食べ物や土などの測定依頼を受け付けていますので、まずはお気軽にスタッフまでご相談ください。

・放射能測定についての申し込み・ご相談
・これまでの測定データについてのご紹介



○7/12（土）郡山市ビッグアイ7階市民交流プラザ
参加者数 26 名

○7/27（日）双葉郡浪江町道の駅なみえ予定（7/18現在）

甲状腺検診スタッフの声



広島国際大学健康科学部教授
野宗義博先生

福島第一原発事故から14年が経過し、幸いなことにチェルノブイリ事故後に見られたような小児甲状腺がんの著明な多発は、福島では認められていません。これは日本の被ばく線量が比較的強く抑えられたこと、また迅速な避難・食品管理体制などが影響していると考えられています。それでも、今後も健康調査・甲状腺検診を継続することには、以下のような意義があります。

晩発性影響の可能性として、チェルノブイリ事故後は10年以上経過してから甲状腺がんが増加した報告もあります。長期的影響を否定するにはより長い観察が必要で、特に小児期に被ばくした人の追跡は、成人期以降の健康影響を見逃さないために重要です。

検診を継続することは、被災地の人々の安全と安心につながります。スクリーニング効果と過剰診断への配慮として、「福島県判定」より詳細な「たらちね判定」を採用した結果を受検者にお伝えしています。



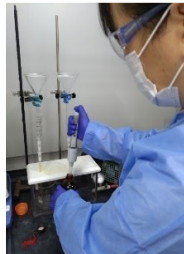
震災から14年が経ち、甲状腺検診を受ける方が年々少なくなり、たらちねも出張検診の回数が減りました。でも、医師のみなさんがおっしゃるように、長期的な見守りが必要です。ボランティアで来て下さる先生がいる限り、甲状腺検診を続けていきたいと思っています。（古閑）



たらちね防災プロジェクト

福島第一原発事故が起きた時、私たちには知識も情報もなく、様々な情報に翻弄され、多くの人が余計な被ばくをしました。本プロジェクトは、市民と女性の目線から考える「原発事故防災」です。3.11を通して、たらちねが経験した、市民ができる防災を女性の立場から女性のみなさんにノウハウを共有し事業を実施しました。

2023年1月からスタートしたプログラム1の知る・学ぶ編には、北海道から、西日本までの女性45名が参加しました。原子力防災・減災について考えるため、各分野の専門家のオンライン講座9回と福島の被災地見学会を行いました。プログラム2は、プログラム1を学んだ方の実習編です。何度も福島入りしてもらい、発災後の暮らしに必要な放射能測定技術の実習と、甲状腺検診、海洋調査など、体験学習していただきました。



防災Book “Hahaの書” 被ばくからこころとからだを守る防災

「Hahaの書」は原発事故を経験した私たちが、当時どんなことに困り、どんなことに気をつけたらよかったのか、福島を経験を基に作りました。絵本の中のエピソードは、2011年3月に起きた東京電力福島第一原発事故で被災したお母さんたちが、実際に経験し語ったものです。この絵本を平時の時から家族で読み、あの時、こうしていればよかった…と後悔しないよう、事故が起きる前に知っておくだけで、どう行動したらいいのか考えられる市民ができる被ばく防護の絵本です。



監修：天野光 渡邊久子

挿絵・装丁：松本令子

企画・編集・発行：認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね
(2025/3/1発行)



車座・座談会

専門家による学習会と座談会：双葉郡大熊町で計2回実施

双葉郡から避難している人、帰還する選択をした人、震災当日福島第一原発内で働いていた人たちの、普段口に出来ない思いを吐露する貴重な場となりました。参加者の皆さんからも、少人数グループのおかげで多くの意見交換ができ有意義だったと反響があり、スタッフも含め参加者全員が学び知る交流の機会となりました。



第一弾 講師 今中哲二先生

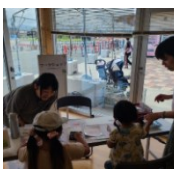
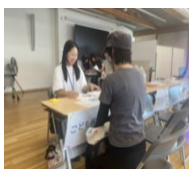
第二弾 講師 藤田 操先生

Linkる大熊にて



たらちね大相談会

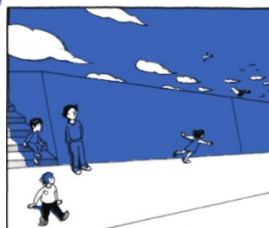
双葉郡浪江町（道の駅なみえ）・福島県郡山市（福島県農業総合センター）たらちね大相談会&出張甲状腺検診を実施定期的に実施している出張甲状腺検診に加え、保養相談・こころのケア（ワークショップ・箱庭）・放射能測定案内・クリニック健康相談と、全事業の活動を知っていただく場となりました。当日は3歳から80代の方が参加。甲状腺検診を受検した方が帰り際に、看護師から血圧測定や尿中セシウム測定の説明を受け、たらちねドックに興味を寄せてくれる方、保養相談、放射能測定案内の後にワークショップのパスティルアートを楽しむなど沢山の方に喜んでいただきました。



『非常時に命を守るという重たい内容なのに、絵本のような優しい本になっていて、たらちねの皆様の優しさを感じました。この本が実際に役に立つ日が来ないことを祈りますが、一方で次々と原発が再稼働している昨今、他人ごとではいられないと痛切に感じております。』

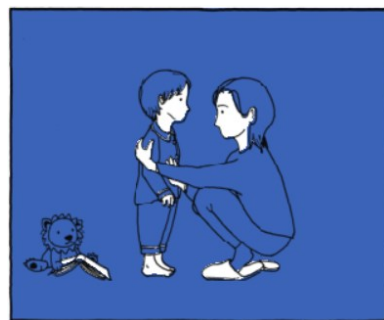


体験したママたちだからこそ伝えられる大切なことが、ひとつひとつ全身に染み入ってくるようでした。廃炉のいく末も見えず、健康被害がどうなっていくのかも見えない中、よくぞまとめてくださったと思います。忙しい子育て中のママパパたちも、手にとってすぐ読めます。



『他に類を見ない素晴らしい防災の書である。原発から100キロの距離で、不安に思っている人もいる。これは多くの人に届けるべき。』

この本を手にしたしたら、福島原発の事故は過去のできごとと思ってしまいう私がいた、と気づかされました。原発事故の裁判で誰も責任を取らない構図ができてしまい、これでは二度目三度目の事故が起こると思っているのに、日常に紛れておりました。これから日本で生きていく人には必読の書と思いました。



女性の防災に参加して

私は、目に見えないモノを測る重要性が理解できました。参加以前は、居住地の京都には原発は無く、福島のような災害とは無縁だと思っていました。ですが、原発のある日本に住んでいる限り避けることの出来ない事だと初めて認識ができました。また、いつ地震が起こるかわからない日本で、近くに原発もある京都で平時から備えておかねばならないことがあると意識が変わりました。

実習では実際に居住地近くの土壌を採掘ラボにて測定。数値が出て測定値がデータと検出されそれを記録。目で土壌だけみても、その中身は何を含んでいるかわかりません。匂いがあってもそれは土の匂いでしかありません。海水も同じことがいえると思います。数値には、データとしての事実があり、だれの目から見ても同じです。平时に測定を行い、そのデータが有れば有事の際に比較でき、分別がつけやすくなるという事が理解できました。

私は四日市という所で生まれ育ちました。四大公害のうちの一つ、大気汚染で知られているコンビナートがある場所です。時々、煙突から出る煙は目に見えますし、空が灰色がかっているのも見てわかります。また幼い頃、何とも言えない匂いがあった日のこと思い出しました。意図せずとも目に入り、体感するので市民の声も集まりやすいと思います。ですが放射能は、匂いもなし、目にも見えないため、意図しなければわかりません。そのため目に見えないモノを測ることはとても重要だと改めて思いました。



山本 みさを



4月～7月の活動内容

5月 2025年度定期総会開催



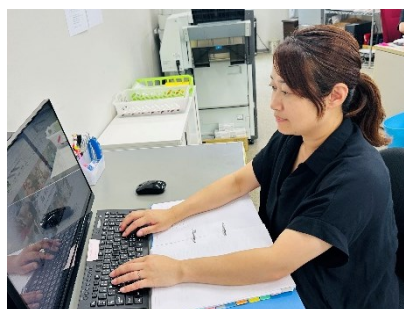
6月 添田孝史講演会
「そこに造ってよかったのですか」



7月 たらちね通信発送



運営本部スタッフの声



運営本部は、支援者の皆さまの想いを
つなぐ窓口として、日々業務に取り組
んでいます。ご支援に込められた一つ
ひとつの想いを大切に受け止め、たら
ちねの活動を通して、安心安全を届け
ていきます。（進藤）



ご支援ありがとうございました！



神戸在住のご支援者様から、たくさんの素敵な絵本をいただきました。神戸市の絵本屋さん『ぼたん堂』さんが、選書してくださいました。



今中哲二先生より、
サクランボをいただ
きました。



珈琲豆屋 コモン 様より、
フェアトレード/オーガ
ニックのコーヒー豆をたく
さんいただきました。



ご支援者様より、
かわいい手作り
マスコットを
いただきました。



ご支援者様より、新鮮な野菜、無農薬
のレモンやポンカンをいただきました。

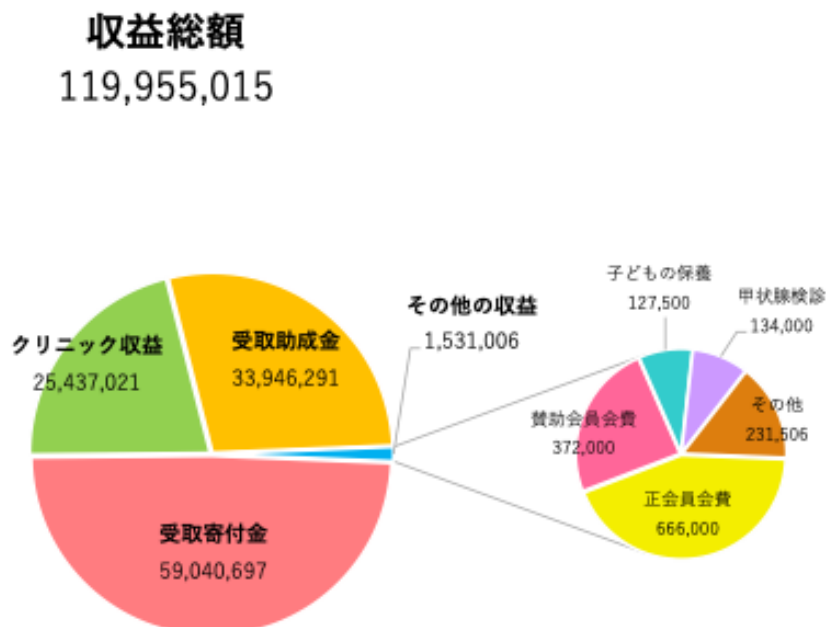


たらちねの活動は、原発事故のことをともに考え、子どもたちの役に立ちたいと願う、多くのご支援者様からのご寄付でまかなわれています。現場で動く私たちは、人々の思いを胸に、日々、事業に励んでいます。どうか、これからも応援を よろしくお願いいたします！

収益の内訳 (単位：円)

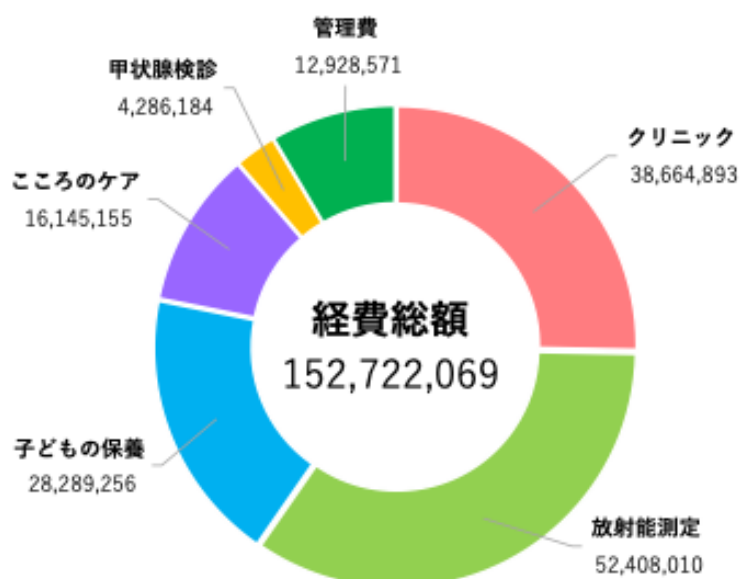
2024年度

事業	金額
受取寄付金	59,040,697
クリニック収益	25,437,021
受取助成金	33,946,291
その他の収益	1,531,006
正会員会費	666,000
賛助会員会費	372,000
甲状腺検診	134,000
子どもの保養	127,500
収益総額	119,955,015



費用の内訳

事業	金額
クリニック	38,664,893
放射能測定	52,408,010
子どもの保養	28,289,256
こころのケア	16,145,155
甲状腺検診	4,286,184
管理費	12,928,571
経費総額	152,722,069

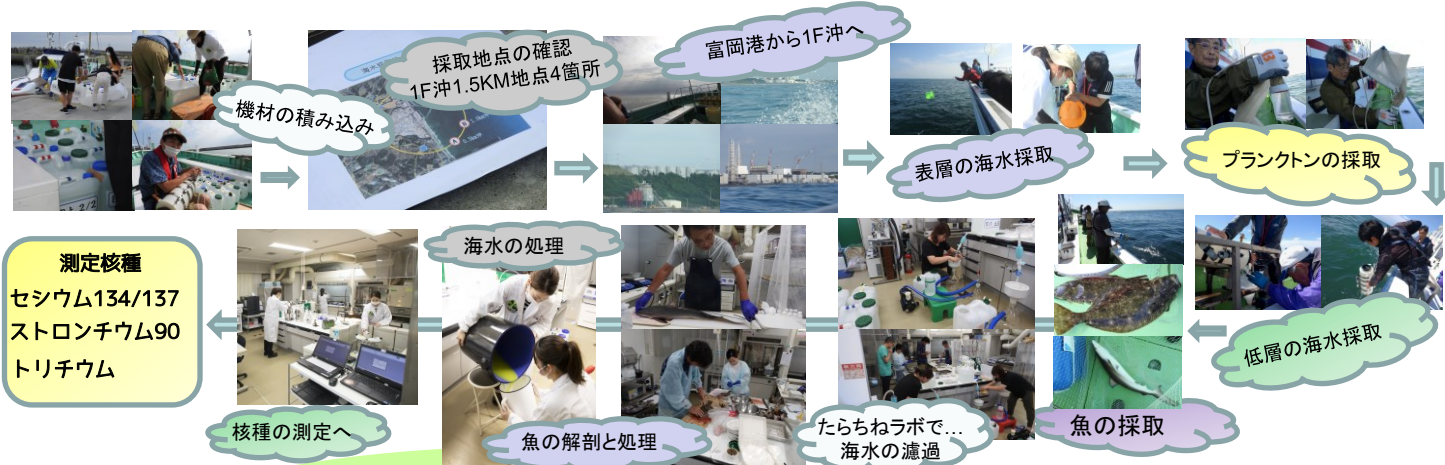


たらちねは事業の継続を目指しています。
みなさまからのご寄付により継続が可能となります。
どうか、ご寄付によるお力添えをよろしくお願いいたします。

今回は、こちらの事業を紹介させていただきます。
たらちね海洋調査&尿中セシウム測定

たらちね海洋調査

たらちねでは、いつか、放射能の汚染水を海洋放出することが現実のものとなるかもしれないと危惧し、2015年から海洋調査を開始しました。処理汚染水の放出が現実のものとなった今、放出前と放出後、二つの科学的データを市民の力で可視化し比較して、「最悪の状態にならないければ環境の悪化に気づかない」ことにならないよう備え、発信することが大切だと思っています。子どもたちの未来のために、私たちにできることを行っていききたいと思います。



海洋調査には、どのぐらいの経費がかかるの？

- ・用船料：調査船のチャーター1回8万円ほど。
- ・セシウム134/137の測定：1カ所3万円ほどで8カ所の測定を行います。
- ・トリチウムの測定：1カ所8万円ほどで8カ所の測定を行います。
- ・ストロンチウム90の測定：1カ所14万円ほどで8カ所の測定を行います。
- ・クロスチェック費用：たらちねの測定に間違いがないかどうか、他の分析機関と測り比べを行います。1年間に50万円ほどかかります。

たらちねでは、福島第一原発沖の調査のほかに、福島県沿岸や宮城県沿岸、茨城県沿岸などを含め、合計で年間10回程度の調査を実施しています。1回の海洋調査にかかる費用は約200万円ほどで、年間1500万円以上の費用がかかります。

尿中セシウムの測定

たらちねでは、食品や土壌からの内部被ばくを軽減するために、2015年から尿中セシウムの測定を始めました。自分や家族の被ばく量を数値で知ることが、日々の暮らしを見直すことになり、被ばく防護に役立ちます。

尿中セシウムの測定って、一人いくらぐらいかかるの？

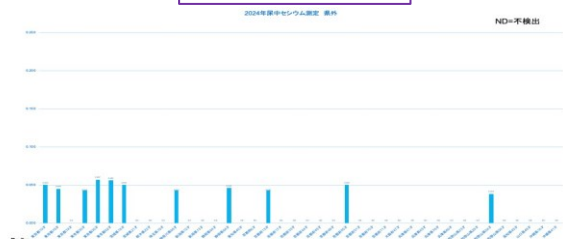
- ・キット価格 2,000円
- ・送料(クール便) 1,300円(地域により差あり)
- ・測定料金 5,500円
- ・書類作成等の雑費 500円
- 合計 約 9,300円

尿中セシウムの測定の流れ

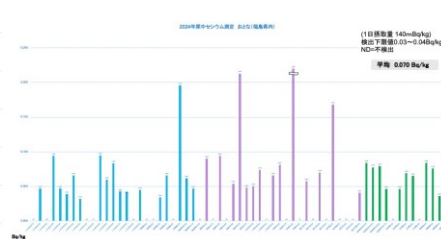


こちらは、2024年度にたらちねで行った尿中セシウムの測定結果です。原発事故から14年が過ぎましたが、福島県内外を比較すると、放射性物質による環境汚染の影響について考えさせられます。また、身長が低く外での活動も活発な子どもは、大人と比べて被ばくリスクが高いこともわかります。「もう大丈夫」と思って油断しがちですが、まだまだ気をつけなければならない状況です。

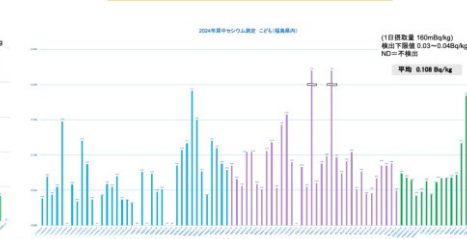
福島県外在住の測定結果



福島県内在住大人の測定結果



福島県内在住子どもの測定結果





ご寄付のお願い

「たらちね」の活動は、みなさまからのご寄付でまかなわれております。
子どもたちの命を守るためにご支援・ご協力をお願い申し上げます。



クレジットカードによるご寄付は
インターネット上からお申込み可能です！



ご寄付は税控除の対象になります

たらちねは認定NPO法人です。個人・法人・遺産相続からご寄付をいただいた場合、税金の控除が
ございます。

たらちねにいただいたご寄付は、「特定寄付金」として、税額控除の対象となります。法人からの
ご寄付につきましては、特別損金算入限度額の寄付金として損金算入することができます。

寄付金控除を受けるには

寄付金控除を受けるためには、必ず確定申告をしてください。

(確定申告の際には「たらちね」が発行した領収書が必要です)

10,000円の寄付をすると…



(寄付金額－2,000円)×40%
が還付されます

※所得税額の25%が限度

Paypal(ペイパル)による
クレジット決済も可能です



《ゆうちょ銀行からのお振込み》

ゆうちょ銀行 02240-5-126296 トクヒ) イワキホウシャノウシミンソクテイシツ

《ゆうちょ銀行以外のお振込み》

東邦銀行 小名浜支店 店番号 605 普通預金 口座番号 1389887

トクヒ) イワキホウシャノウシミンソクテイシツ

「野の道」

野の道をととのへよう
子らが行く路
樹々もあれ、野の花々
かたはらに蜜も虫も
裸足よ歩けば
ひたひたと
死んでゐるひとたち
うたを唱へば
かやかやと
未だ生まれぬもの等にも
響き伝はる
生きてゐる音
野をならし
道をととのへよ
子らが通ふ野の路
はるかむかうを見るあたり

「子どもたちの歩く道をととのえていく」私たちが日々大切にしていることです。
子どもたちの毎日を支える活動の詩(うた)です。

認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね

〒971-8162

福島県いわき市小名浜花畑町11-3 カネマンビル3F

TEL 0246-92-2526 FAX 0246-38-8322

メールアドレス toiawase@tarachineiwaki.org

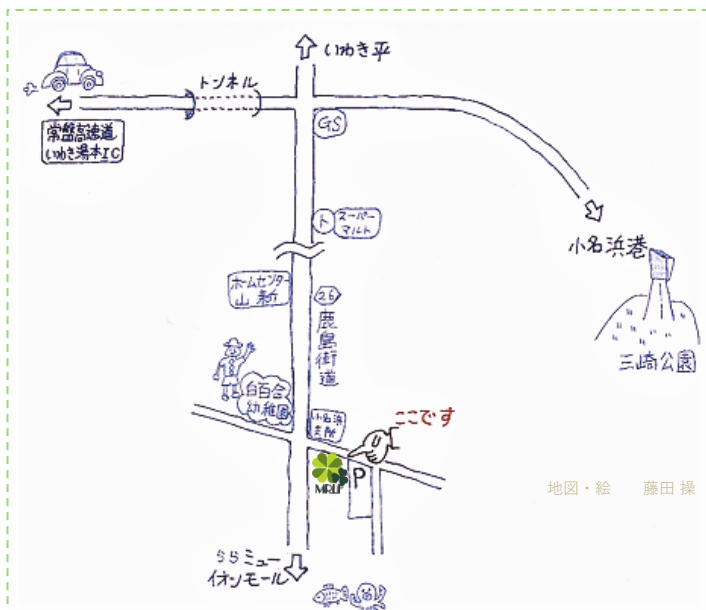
ホームページ

インスタグラム

フェイスブック



随時更新してます♪ フォローお待ちしております！



地図・絵 藤田 操

たらちね通信vol.24

発行者 認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね

福島県いわき市小名浜花畑町11番地の3

電話 0246-92-2526

ホームページ <https://tarachineiwaki.org>

発行日 2025年7月18日

Copyright © 認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね

この内容を許可なく転記することを禁じます